56th GALAXY AWARDS ギャラクシー賞 贈賞式

第56回ギャラクシー賞贈賞式が5月31日、東京・渋谷のセルリアンタワー東急ホテルボールルームにて開催された。放送・広告・芸能関係者の総入場者数は約600名、会場は例年通りの盛況となった。

審査対象作品は、テレビ部門、ラジオ部門、CM部門、報道活動部門の4部門合計で747本。当日は各部門の入賞作品のなかから「優秀賞」「大賞」を発表した。さらにテレビ部門「個人賞」「特別賞」「フロンティア賞」、ラジオ部門「DJパーソナリティ賞」、そして「志賀信夫賞」「マイベストTV賞」の表彰も行った。

司会は長崎放送アナウンサーの村山仁志さんとフリーアナウンサーの前田真里さん

テレビ部門

テレビ部門で贈賞された14作品

❖テレビ部門・大賞

日本放送協会　**ETV特集「静かで、にぎやかな世界～手話で生きる子どもたち～」**　全編ノーナレーション、ろう者の静かな手の音と現場音、最小限のBGM。手話で大騒ぎする子どもの姿、手話で朗読をする子どもの豊かな表情に、ろう者の“静かで、にぎやかな世界”の素晴らしさがあふれ出る。

「このような素晴らしい賞をいただけたことを、スタッフを代表してお礼申し上げます。視聴者の方からは、知らなかったことを知ることができたという声が多かったです」（NHKチーフプロデューサー・村井晶子さん）。その後登壇した、自らも聴覚障害を持つディレクターの長嶋愛さんは「私自身、自分からはあまり提案をしないタイプなんですが、ろう学校の子どもたちがあまりに楽しそうで、そのときは珍しく自分から校長先生に番組を作らせてほしいと言いました」。

❖テレビ部門・優秀賞

テレビ朝日　**金曜ナイトドラマ「dele」**
「死者の人となりはPCやスマホを見たほうがわかる、という現代的な着想をもとにしました。制作現場では苦労もありましたが評価していただけて嬉しいです」（ドラマ制作部ゼネラルプロデューサー・黒田徹也さん）

東海テレビ放送　共同テレビジョン　**オトナの土ドラ「結婚相手は抽選で」**　「チーフ監督の石川淳一さんが作ったシリアスな世界観にどう入っていけばいいのかと、最初は悩みましたが、結局社会派のドラマが作れたのだなと」（監督・紙谷楓さん）

日本放送協会　**ETV特集「誰が命を救うのか 医師たちの原発事故」**　「8年前の震災の最前線で医療に従事した人たちが何を見たのか。それを教訓として後世に伝えたいという思いがありました」（制作局文化福祉番組部ディレクター・鍋島塑峰さん）

ラジオ部門

❖ラジオ部門・DJパーソナリティ賞　鬼頭里枝

「テキトーナイト!!」（静岡放送）パーソナリティ
静岡で中高生のリスナーとともに、10年以上にわたって番組を育んできた鬼頭さん。「子どもの頃からラジオが好きで、大好きなことをずっと続けていれば、いつかご褒美がもらえるんですね」。スタッフへの感謝の言葉を述べると感極まる場面も。「ラジオの良さって、パーソナリティが、リスナーが目の前にいることだと思います。そんなラジオの未来は明るいと思っています」。

❖ラジオ部門・大賞

ラジオ沖縄　**私宅監置・沖縄～扉がひらくとき～**
精神障害者を小屋などに閉じ込める「私宅監置」という非人道的措置が、沖縄では他県よりも20年以上も長引いた歴史があった。「当事者の話を聞くにつけ、悲しい歴史の向こうに自ら扉を開こうとするパワーを感じ、将来への大きなメッセージになると思いました」（制作報道局制作部副部長ディレクター・西中隆さん）。「こうして評価していただけたのも、ひとえに重い口を開いてくださった方々のおかげです」（代表取締役社長・森田明さん）。

❖ラジオ部門・優秀賞

福井放送　**午後はとことん よろず屋ラジオ「許せない！特殊詐欺 絶対にだまされないぞスペシャル」**「被害を少なくするべく、今後もラジオの役割を果たしていきたいです」（ラジオセンター部次長アナウンサー・岩本和弘さん）

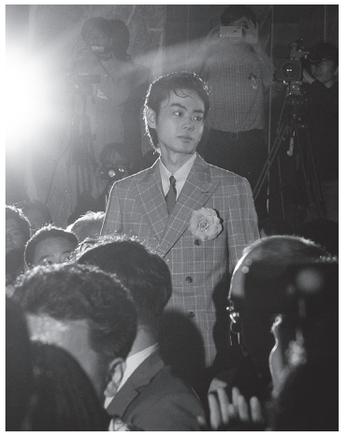
J-WAVE 30th ANNIVERSARY SPECIAL RINREI NATIVE MUSIC JOURNEY「開局以来さまざまな音楽を提供してきましたが、本企画は世界中で聴き継がれている伝統音楽に焦点を当てました」（編成局編成部長・宇治啓之さん）

TBSラジオ年末交通情報～おまけ付き～
「毎日何らかの形で放送されている交通情報を、車を運転しないリスナーの方にも楽しく聴いてもらえないかというのが企画の発端でした」（TBSグロウディアラジオ制作部ディレクター・福田展大さん）

テレビ部門

❖テレビ部門・個人賞
菅田将暉

金曜ナイトドラマ「dele」（テレビ朝日）、「菅田将暉TV」（NHK）、「3年A組 ―今から皆さんは、人質です―」（日本テレビ）の演技
デジタル遺品をめぐる人間ドラマ「dele」では、辛い過去を抱えながらも素直で人なつこい青年を好演、教師が生徒を人質にするという学園ミステリー「3年A組 ―今から皆さんは、人質です―」では、体を張って生徒たちに生き方を教える教師役を熱演。一方、自ら企画する形でコメディドラマ制作に挑戦した「菅田将暉TV」での新境地も印象的だった菅田将暉さん。当代随一の人気俳優がチェック柄のおしゃれなスーツで登壇すると、会場の空気が一変した。開口一番、「3作品とも自分がやりたいと思って取り組んだもので、子どもの頃からずっとテレビを見て育ってきた自分が、テレビの世界でやりたいことをやって、見ていただけたというのはすごく嬉しいです」と、喜びを表現した。続いて「ただ、自分の名前を冠した『菅田将暉TV』がフィーチャーされるのは少し恥ずかしいものがありますね」と、ちょっぴり照れてみせた。サプライズとして、「3年A組」で共演した女優の永野芽郁さんからビデオメッセージが寄せられた。



志賀信夫賞

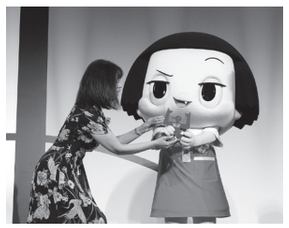
今野 勉（株式会社テレビマンユニオン最高顧問）

TBS、テレビマンユニオンを通じてキャリア60年余、ドラマ、ドキュメンタリーを始めとして、さまざまな映像ジャンルを手がけてきた“スーパー演出家”として、今も第一線で活躍を続ける今野さん。「テレビ界に入って以来、僕がやってきたことはいちディレクターとして番組を作り続けてきたこと以外にないので、放送全般に寄与したと言われると、おこがましい気はしています。ただ志賀信夫さんとは批評家と演出家という関係で長い付き合いでしたので、この賞がもらえるというのはたいへん嬉しいです」。ゲストにはドラマ「七人の刑事」が最初の出会いだったという女優の宮本信子さんが登壇し、祝辞を述べた。さらに女優の大竹しのぶさんがビデオメッセージで花を添えた。

マイベストTV賞

チコちゃんに叱られる！
（日本放送協会　NHKエンタープライズ　共同テレビジョン）

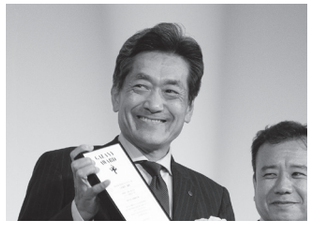
老若男女問わず、世間の大きな話題をさらった型破りな情報クイズバラエティが、第13回マイベストTV賞グランプリに輝いた。「いつも視聴者の皆さんに楽しんでもらえるような番組を作ろうと頑張っていますが、まさか視聴者の皆さんを叱りつける番組で（笑）、こんな素敵な賞をいただけるとは思ってもみませんでした」（共同テレビディレクター／総合演出・河井二郎さん）。その主役はもちろん、番組内では着ぐるみとCG合成によって天衣無縫の活躍を見せる永遠の5歳児・チコちゃんだ。河井さんと仲良く手をつないで登壇したチコちゃんは、「マイベストTV賞グランプリ、超うれしいー！」とのコメントの後に、伝家の宝刀「ボーッと生きてんじゃねーよ！」を披露し、会場を大いに沸かせた。なお、プレゼンターはGメンバーの小柳憲子さんが務めた。



チコちゃん、プレゼンターからトロフィーを上手に受け取りました（写真･右）。

CM部門

❖CM部門・優秀賞



南都銀行 相続・遺言信託 シリーズ「南都家の一族」　複雑かつ重いテーマを、娯楽性たっぷりのドラマ仕立てで描いた快作。「制作に携わった博報堂関西支社、制作会社のクレイさんに感謝です」（南都銀行取締役専務執行役員・西川惠造さん）

三井住友カード 企業 シリーズ「Thinking Man篇」　キャッシュレス時代の到来を、小栗旬を主人公に独特の世界観で表現。「キャッシュレス時代にどういう価値を提供できるかというテーマを表現しました」（三井住友カード執行役員・佐々木丈也さん）

上毛新聞社・群馬テレビ・エフエム群馬 特殊詐欺ゼロキャンペーン「無許可篇」　特殊詐欺犯の実音声を使った、3社コラボのラジオCM。「反応も大きかったので、次作を検討中です」（エフエム群馬編成部チームリーダー・原壮俊さん）

❖CM部門・大賞

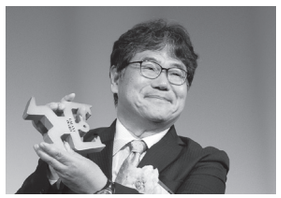
スカパーJSAT 基本プラン シリーズ「スカパー！堺議員シリーズ」　国会議員･堺雅人とその妻、娘とのコミカルなやりとりによって、感動を共有できるテレビの良さを見事に表現したシリーズCM。「驚きました。本当ですかという心境です。『家を楽しくするのは、テレビだ。』というコンセプトから、家族を登場させるというアイデアが生まれましたが、特に小池栄子さんの演技は凄いと思いましたね」（スカパーJSAT取締役執行役員専務・小牧次郎さん）

報道活動部門

❖報道活動部門・大賞

山陽放送　**1980年から現在も続くハンセン病に関する報道および活動**
約40年間、歴代担当記者7人がバトンをつないで継続されてきたハンセン病報道。「最初にこの問題を取り上げる際に大変な苦労をし、そして私にこの問題に取り組むチャンスをくださった先輩ディレクター、カメラマンに感謝を述べたいと思います。私は6人目に当たりますが、取材中にある方から聞いた『日本のハンセン病政策は戦争によって生まれたんだ』という言葉が今も忘れられません」（社長室長／前報道部長・山下晴海さん）

❖報道活動部門・優秀賞



中京テレビ放送　**ドキュメンタリー「マザーズ」を起点とした特別養子縁組の継続報道7年**　「2011年の東日本大震災によって大勢の震災孤児が出て、海外から引き取りの要望が来ているという報に接し、特別養子縁組という制度に関心を持ちました」（CTV MID ENJINチーフディレクター・安川克巳さん）

テレビ東京　**ガイアの夜明け「マネーの魔力」**
「番組は16年目を迎えましたが、今回は調査報道という手法で企業のあり方を見つめるという新しい形を提示できたかと思います。今後も経済報道という視点をしっかりと持った番組づくりをしていきたいと考えています」（報道番組センターチーフプロデューサー・野田雄輔さん）

テレビ部門

❖テレビ部門・フロンティア賞

スローな武士にしてくれ（日本放送協会　オッティモ　NHKエンタープライズ）
時代劇の伝統を受け継ぐ京都の撮影所に、スーパースローカメラやドローンを持ち込んだら――大部屋俳優や撮影所のスタッフが悪戦苦闘する舞台裏を描きつつ、実際に最新の映像機器を駆使した殺陣シーンや「池田屋階段落ち」を再現してみせた。登壇したNHKエンタープライズプロデューサー・川崎直子さんが「映像技術を作り上げてきた現場の創意工夫やチャレンジ精神をベースにした」という源孝志監督のメッセージを代読し終わると、古参監督役の石橋蓮司さんとカメラマン役の本田博太郎さんがサプライズ登場。石橋さんは「『蒲田行進曲』へのオマージュが強い作品で、深作欣二監督や昔のことを思い出しました」、御年67歳で初のワイヤーアクションに挑戦した本田さんは「楽しくて、楽しくて遊園地にいるようでした」と話した。

❖テレビ部門・特別賞

BS1スペシャル「ボルトとダシャ　マンホールチルドレン20年の軌跡」（日本放送協会　えふぶんの壱　NHKエンタープライズ）　モンゴルのマンホールで暮らす子どもたちの壮絶な半生を20年にわたって記録した人間ドキュメンタリー。「20年間に関わったのべ500人近いスタッフに、この賞を捧げたいと思います」（えふぶんの壱取締役プロデューサー・山口秀矢さん）。「名もなき人たちを長期にわたって追い続けるのは、大きな組織では難しい面もあり、それはえふぶんの壱さんのような会社だからこそなし得たとも言えます。そういう仕事を放送局がサポートして世に送り出したという点も評価していただけたのなら嬉しいです」（NHKエンタープライズエグゼクティブプロデューサー・西村崇さん）。

懇親会

贈賞式後の懇親会には、同ホテル内会場にて民放、NHK、制作会社、広告主企業、広告会社、そしてギャラクシー賞の審査・運営に携わった放送批評懇談会のメンバーが集い、受賞者の栄誉を祝福した。来賓として日本民間放送連盟の角南源五副会長、日本放送協会の木田幸紀専務理事、スカパーJSATの小牧次郎取締役執行役員専務が登壇し、祝辞を述べた。懇親会にはマイベストTV賞グランプリのチコちゃんも出席。受賞者、関係者とのひとときを楽しんだ。

日本民間放送連盟副会長・角南源五氏

日本放送協会専務理事・木田幸紀氏

スカパーJSAT取締役・小牧次郎氏